

平成 24 年度第 2 回産業応用部門論文委員会主査会議 議事録（案）

1. 日時 平成 24 年 6 月 11 日(月) 13:30-15:30
2. 場所 電気学会本部会議室
3. 出席・欠席者（敬称略）：D1:2 名、D2:1 名、D3:1 名、D4:2 名、D5:1 名、他:4 名
（重複所属主査については各グループ人数に重複してカウント）

○出席

竹下（編修長、名古屋工業大学）、寺田（副編修長、徳島大学）、村上（編修長補佐、慶應義塾大学）、船渡（24 年度 D1 主査、宇都宮大学）、綾野（24 年度 D1 副主査、東京高専、記録）、山口（24 年度 D2 主査、リコー）、村井（24 年度 D3 主査、東海旅客鉄道）、叶田（24 年度 D4 副主査、日立製作所）、浜松（25 年度 D4 副主査、日本大学）、亀井（24 年度 D5 主査、三菱電機）、姉崎（ゲストエディタ、沖縄高専）、

×欠席

藤田（東京工業大学、編修広報担当役員）、庄山（25 年度 D1 副主査、九州大学）、岩崎（24 年度 D2 副主査、名工大）、高橋（25 年度 D2 副主査、香川大学）、野口（24 年度 D3 副主査、静岡大学）、樋口（25 年度 D3 副主査、長崎大学）、道木（24 年度 D4 主査、名古屋大学）、近藤（24 年度 D5 副主査、千葉大学）、鈴木（25 年度 D5 副主査、筑波大学）、山崎（ゲストエディタ、千葉工大）、佐藤（ゲストエディタ、千葉大）、南方（ゲストエディタ、千葉工大）、赤津（ゲストエディタ、芝浦工大）、大石（ゲストエディタ、長岡技科大）、小田（ゲストエディタ、千歳科学技術大）、廣塚（ゲストエディタ、中部大）

4. 提出資料

- 24-2-0 平成 24 年度第 2 回 D 部門主査会議事（綾野）
- 24-2-1 平成 23 年度第 6 回兼平成 24 年度第 1 回産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）（綾野）
- 24-2-2 2012 年度主査会メールリスト・論文委員会名簿（村上）
- 24-2-3 電子査読システム運用状況（村上）
- 24-2-4-1～4 特集号の論文募集案(回転機技術特集)（村上）
- 24-2-5 論文委員候補者推薦用紙（村上）
- 24-2-6-1～5 D 部門論文賞推薦書・D 部門査読功労賞推薦書（村上）
- 24-2-7-1～3 「異議申し立て」に関する回答書（村上）

5. 議事

5.1 主査会メンバーの自己紹介およびメールリストの確認

出席者より自己紹介が行われた。また、村上編修長補佐より、資料 24-2-2 に基づき、主

査会メールリストおよび論文委員会名簿が連絡された。メールリストについて、変更等がある場合は村編修長補佐へ連絡すること。

5.2 議事録確認

下記の点を修正した上で承認された。

(1)5.2 節 英文論文誌の 23 年における投稿状況は → 共通英文誌の 23 年における投稿状況は

(2)5.3 節 本来であればゲストエディタ実施する → 本来であればゲストエディタが実施する

(3) 5.6 節 D4 副主査研究委員会委員は・・・ → D4 副主査、研究委員会委員は・・・
なお、5.1 節に記載された、「ゲストエディタに関する・・・委嘱日から特集号発刊直後の主査会まで主査会メンバーとなる。」という議事に対して、村上編修長補佐より、査読の終了が特集号発刊に間に合わなかった論文に対して対応することが理由である旨が補足説明された。また、ゲストエディタからの依頼があれば、早めに主査会 ML に登録することも可能であることが連絡された。

議事録のホームページ掲載に関して、掲載時には個人名および論文番号を削除することが確認された。これに関しては、山口 D2 主査より岩崎 D2 副主査に連絡する。

竹下編修長より、5.3 節に記載された回転機技術特集号に関して、ICEMS で発表した論文は修正を加えずに投稿してもよいことに変更されたと連絡があった。これは、ICEMS の発表論文は電気学会が著作権を持つためである。

オブザーバとして登録されている藤田先生は編修広報担当役員を交代されているのではないかとの意見があった。本件は、竹下編修長から編修広報委員会に問い合わせる。(中沢様(東芝)に交代しているとのこと)

5.3 電子査読システム運用状況

村上編修長補佐より資料 24-2-3 に基づき説明があった。24 年年度の 5 月までの日本語論文誌の投稿状況は、D1：36 件(レター2 件)、D2：60 件、D3：38 件(レター2 件)、D4：8 件(レター2 件)、D5：33 件(レター1 件)である。D2 の投稿数が多い要因および D5 の投稿数が増加している要因は、特集号関係の投稿によるものである。共通英文誌の投稿状況は、D1：7 件、D2：3 件、D3：9 件、D4：0 件、D5：1 件である。英語論文誌の発刊により減少することが予想される。

5.4 特集号状況確認

英文論文誌「Motor Drive and Related Technologies」特集は、論文投稿数は 11 件である。そのうち掲載が見込めそうなものは 8 件であり、特集号として成立する見込みである。

Special Issue on “Technologies of Rotating Machinery” (「回転機技術」特集)について

は、現在、論文募集の掲載をする段階である。日本文募集はホームページと学会誌に掲載し、英文募集はホームページとニュースレターに掲載する。

Okinawa 型ロボット・組み込みシステム特集については、論文投稿数は 16 件である。そのうち掲載処理済み論文は 3 件あり、査読中論文を含めて特集号として成立する見込みである。ただし、論文番号 D12-055 の案件は 1 回目査読が未終了であるため、査読者に対して催促をお願いする。

モーションコントロール特集については、論文投稿数は 20 件であり、第一回査読終了は 4 件である。英文論文誌は、4 件未満でも特集号として認めるが、査読者に対して催促をお願いする。特に、1 月号の掲載案件は、最終原稿の締切りは 8 月中なので、特に早急な査読をお願いしてもらおう。(3 カ月前には最終原稿が仕上がるのが期限である。特集号の起案書には、原稿締切期限を記載しており、それに間に合わせるように査読者に催促を行う。)

「産業計測制御全般」特集については、論文投稿数は 19 件であり、1 回目査読終了は 4 件(返送 1 件、C 判定 3 件)である。

5.5 論文委員の推薦について

論文委員の推薦について、11 件の審議があり全員承認された。D2 グループの論文委員の推薦が極めて多いが、これは、査読を頻繁に依頼しているにも関わらず、論文委員になっておられない方をお願いしたことによるものである。

5.6 D 部門論文賞・論文査読功労賞候補について

D 部門論文賞として 4 件が承認された。

ただし、2010 年に論文賞を受賞している方には受賞資格がない可能性があり、再度確認することになった。(同一の賞の場合は受賞年度を含めて 5 年間は受賞できない。) また、D 部門論文賞は、最大で 6 件まで認められるため、来年度は D4、D5 からの受賞者、或いは、投稿数の多い部門からの第 2 候補を選出する方針とする。

D 部門査読功労賞の推薦が承認された。査読功労賞については、資格該当者が判らないと推薦が困難であるという意見あった。ただし、過去の受賞歴を調べて資格該当者の候補を挙げることも極めて困難であり、まず、該当者を挙げて受賞歴を調べる方針とすることが確認された。

5.7 返送異議について

村上編修長補佐より、3 件の返送異議に関して審議依頼があった。資料 24-2-7-1 については、回答書案の一部を変更することとした。村井 D3 主査から村上編修長補佐に回答案を再送する。

資料 24-2-7-2 については、変更を加えて再度検討して著者に返送することとした。

資料 24-2-7-3 については、回答案通りに著者に返送することとした。

5.8 その他

- (1) 査読者より D 部門英文誌の査読ルールが明確でないとの意見があったとの連絡があった。本件に関しては、村上編修長補佐より、直接、査読者に、旧システムから新システムに移行する折に論文テンプレートの内容を含め査読ルールの記載について確認検討を行なう旨の連絡がなされたと報告があった（現状は、D 部門英文誌のテンプレートは共通英文誌と同一のものを利用しており、査読回答の仕方なども記載されていない。）
- (2) 英文論文誌が 7 月から発刊されることに当たり、英文に関しては全て英語で査読するものとする。現時点では、幹事が依頼するときに、「D 部門では論文委員会で決定したので英文で回答していただきたい」という旨の連絡を加えることとする。
- (3) 査読者より、“スイッチングデバイス”という記載について、用語集では“スイッチングバルブ”と記載されているとの指摘があったとの報告があった。これに関して、用語集は絶対的なものではなく、推奨されるものとする方針が確認された。（用語集の方が時代に合わせて変更される場合もあるため。）
- (4) 査読者から著者修正の期間が長いとの指摘があったとの報告があった。これに関して、現状では、学生が卒業間際に執筆した論文の卒業後の対応、著者が病気などによる遅れ等を考慮して 90 日としているとのことである。
- (5) 新システム移行について、現在、不具合の修正中であり、9 月に遅れる見込みである。
- (6) 追加査読の手続きについて、一回目査読で CC 判定から二回目査読で AD 判定になった場合の第三者査読時において、R 判定で主査が幹事を再割当てした折に、著者は査読者コメントを見ることができる。このため、上記の場合に幹事が主査に対して処理する折には、査読者コメントを全て消去した上で、「追加査読をする。」のみを記載して返答することを徹底すること。
- (7) 次回主査会開催日は、産業応用部門大会最終日(8/23)の意見交換会(昼休みに実施)の後とする。意見交換会の場所・主査会の場所・グループの委員会の場所については、亀井 D5 主査がまとめ、大会事務局に連絡する。